

20m01
提出課題

教育方法学の精神

教育方法論 m 第1回

テーマ「教育方法の学に流れるエスプリ」 1班 番号

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

困難な現実には、それにふさわしい「熟慮」と「想像力」が必要。この二つは、概念装置を粘り強く作り上げなくてはならない。この概念装置を作り出そうとする試みの総括が、「教育方法の学」であり、その教育方法の学に深く流れる精神（＝エスプリ）とは、「リアリズム」「ヒューマニズム」「ロマンチズム」である。

2) リアリズム

教育実践の現場に足を運び、子ども達や教師たちとともに、さらには保護者や地域の人々と交わりながら、ともに教育の方法を考え、ともに責任を分とうとした精神

何よりも教育実践の事実や経験に即して考えることを重視

現実を改革するための志向性を持っていた

3) ヒューニリズム

常に弱者の視線から教育実践の在り方を構想し、そこに教育的価値の源泉を見出そうとしてきた精神
復元力によって、歩みを止めることはなかった

例「つまずきを活かす授業」←逆転の発想

4) ロマンチズム(イディアリズム)

その現実立脚して、さらにはその現実を突き抜けようとする意欲と展望を表す精神

ヒューマニズムを歩むことは、苦難の連続であったが、その営みの中に、醍醐味と魅力を見出した精神

(2) ネット資料 ウィキペディア (Wikipedia) より

エスプリ

精神、靈魂などの意味（例：Saint-Esprit は、キリスト教の「聖霊」の意。）の他、心のはたらき（知性、才気、ウィット[1]など）の意味もある。つまり、批評精神に富んだ軽妙洒落で辛辣な言葉を当意即妙に述べる才のこと。その短い言葉は発言者、場所、時間から独立しうる。ラテン語の spiritus（空気・風の一吹き、息吹き）を語源とし、「湿気」を語源とするユーモアと違って、乾いた知的な営みで鋭い武器となる[2]。

物質 (Frimatière, マチエール) と対比される。マチエールと違って「エスプリ」と日本語で使用するときは「フランス的精神」といった風にフランス人の国民性を反映した精神をさす用例が多い。

リアリズム

- (美術・文学) 写実主義のこと。
- (政治学) 現実主義。理想主義に対する語。
- (哲学) 古代哲学では、個別を超えたアイデアが実在すると唱えるプラトンのイデア論。
- (哲学) 中世以降の哲学で、普遍は実在とする実在論（⇔唯名論、普遍論参照）など。

教育方法学の精神

教育方法論 m 第1回

テーマ「教育方法の学に流れるエスプリ」 1班 番号

- 最近の社会科学全般については科学的实在論の項を参照。
- (国際関係学) 現実主義のこと
-

ヒューマニズム

人文主義（じんぶんしゅぎ）あるいは人本主義（じんぽんしゅぎ）という概念は、歴史的な変遷を経て多義的に用いられている。

ロマンチズム（大辞林 第三版の解説）

「ロマン主義」に同じ。現実を離れて夢や空想にひたる傾向。

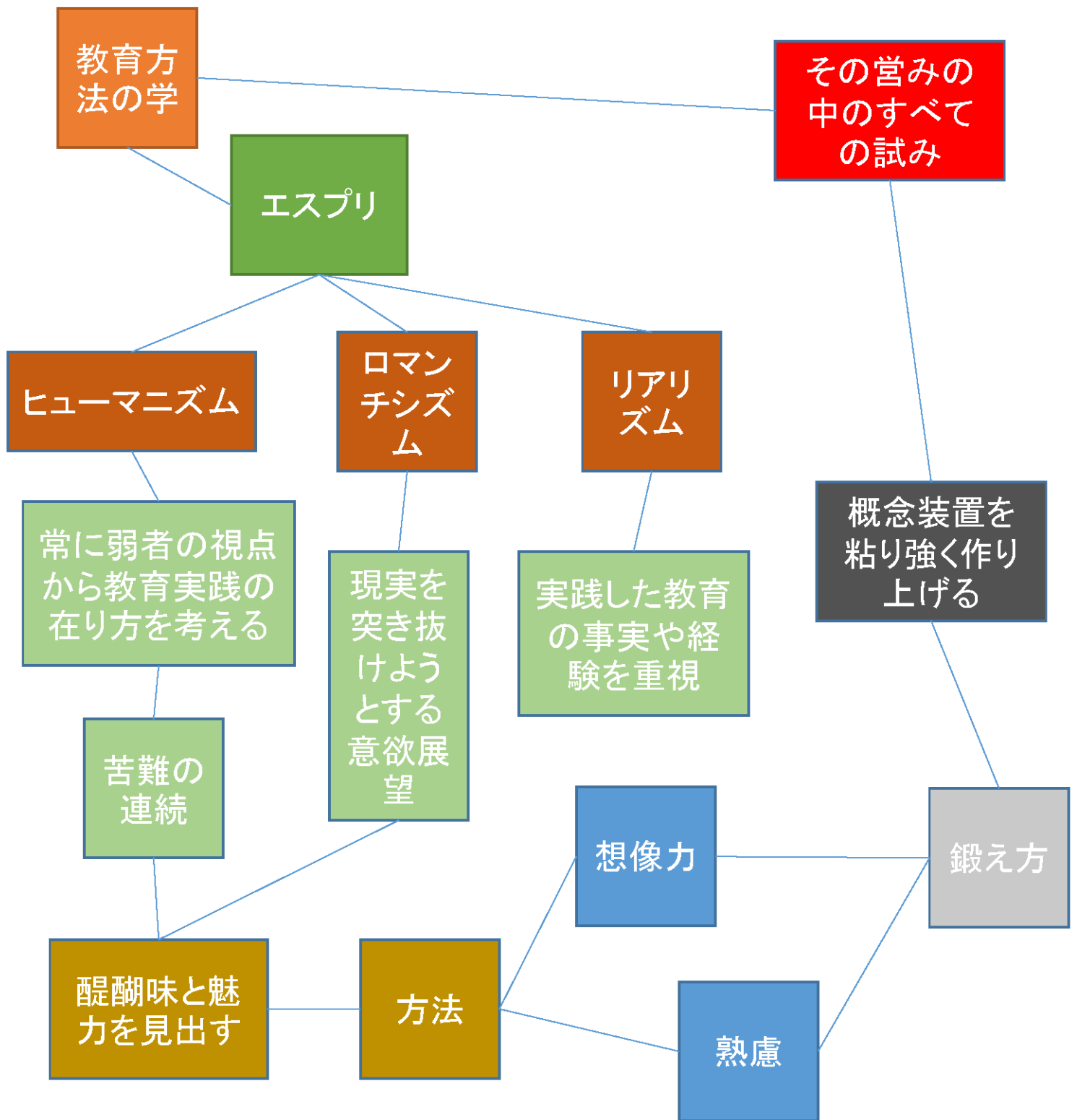
一八世紀末から一九世紀の初めにかけてのヨーロッパで、芸術・哲学・政治などの諸領域に展開された精神的傾向。近代個人主義を根本におき、秩序と論理に反逆する自我尊重、感性の解放の欲求を主情的に表現する。憧憬どうけい・想像・情熱・異国趣味と、それらの裏返しとしての幻滅・憂鬱ゆううつなどが特徴。

(3) 自分の意見

「教育方法 エスプリ」と検索したところこの教科書以外には、しっかりと書かれていなかった。検索の仕方が分からなかったなのでその言葉の意味を検索してみた結果、教育以外でもこれらの言葉多用されていることが分かった。エスプリのキーワードは、「実践力、被差別、努力」でこれらを「熟慮、想像」することが大事であるという風に読めた

初めてでどうすればいいかあまりわからなかった

教育方法学の精神



教育方法学の課題

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●日々変化する社会に求められる子どもを教育するための基準を書いている。

- ポイント 1)現代の社会に求められていることに沿ったものになっている
- 2)教育の技術を高める
- 3)知識と技能を高められるかが教育のカギとなる。
- 4)PBLのような学習が求められる。

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●中学校、高校のの思春期の生徒に必要とする教育の基準を定めている。

- ポイント 1)社会の変化にあった人材の育成
- 2)他社との協働する力を持つ
- 3)学習によって得られる資質・能力について深める
- 4)主体性をもった行動がとれる。

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)

- ポイント 1)子ども一人一人にしっかり向き合う
- 2)社会の一員として自覚が持てるように教育する
- 3)情報社会によって便利になりすぎてかんげえることが減るため、その指摘をする。
- 4)グローバル化に伴い、学習面での強化をする

(4) 自分の意見

全体の要点●社会に合った教育をするべきであるが、人格の形成にもっと力を入れるべきだと思う

- ポイント 1)社会にでてから人間関係で失敗しないように教育すべき
- 2)子どもたちの学習意欲をわかせるために、目標の設定を明確にする
- 3)生徒に押し付けるような教育をしないように、生徒しゅたいで学習できるような内容にする
- 4)PBL、アクティブラーニングの活用

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2017).「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (2) 文部科学省(2018).「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (3) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf

教育方法学の課題

